

(様式1)

教育研究業績書

2023年5月1日

氏名 齊藤 美恵

研究分野	学位	
在宅看護、看護の現象学	修士(看護学)	
研究内容のキーワード		
在宅看護、エンドオブライフケア		
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1. 教育方法の実践		
1) 在宅看護学概論 (講義) * 必修2単位	令和2年10月～	オリジナル教材をもとにした在宅看護の概要についての講義(小演習を含む) 「在宅看護の展開」「リスクマネジメント」「地域包括ケアにおける在宅看護の役割」
2) 在宅看護支援論 (講義・演習) * 必修2単位	令和元年4月～	オリジナル教材をもとにした在宅療養を支える看護援助の展開方法について講義・演習 「呼吸を整える援助技術」「排泄・清潔を整える援助技術」「エンドオブライフケア」「看護過程」
3) 在宅看護学実習 * 必修2単位	令和元年10月～	ICFモデルに基づいた対象者の理解と看護の展開
4) 総合実習 (在宅看護領域) * 必修2単位	令和元年8月～	在宅看護を基盤とした看護に関する知識と技術を統合した看護の展開
5) 療養支援看護実習 * 必修2単位	令和元年8月～	QOLを実現するための患者中心の看護およびチーム医療・ケアの理解を促す実践
6) 基礎ゼミナール * 必修1単位	令和元年4月～	文献の解釈・要約を作者の意図に基づいて行い、自らの理解を他者と共有するための講義と演習
7) 卒業研究 * 必修2単位	令和元年4月～	研究の一連の過程を理解を促すための講義と演習
2. 作成した教科書、教材		
1) 在宅看護学概論 (講義)	令和2年10月～	授業内容の理解を促すため、教科書を補う資料と課題の作成
2) 在宅看護支援論 (講義・演習)	令和元年4月～	授業内容に応じたハンドアウトおよび資料作成、看護過程演習のための事例および看護記録用紙の作成
3) 在宅看護学実習	令和元年10月～	実習への導入を円滑にするためのオリエンテーション資料および演習資料の作成
4) 総合実習 (在宅看護領域)	令和元年8月～	在宅看護における看護組織を理解すること、実習での学びを振り返るための記録用紙等の作成
3. 教育上の能力に関する大学等の評価		
1) 在宅看護学概論 (講義)	令和2年10月～	学生による授業評価 概ね4点以上 (4.24～4.52) であった。
2) 在宅看護支援論 (講義・演習)	令和元年4月～	概ね4点以上 (3.79～4.29) であった。
3) 在宅看護学実習	令和元年10月～	概ね4点以上 (4.00～4.93) であった。
4) 総合実習 (在宅看護領域)	令和元年8月～	教員個別の評価不明
5) 療養支援看護実習	令和元年8月～	教員個別の評価不明
6) 基礎ゼミナール	令和元年4月～	概ね4点以上 (4.00～4.8) であった。
7) 卒業研究	令和元年4月～	概ね4.5点以上 (4.5～4.75) であった。
4. 実務の経験を有する者についての特記事項		
5. その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許等 1) 看護婦免許 2) 保健師免許 3) 介護支援専門員免許		
2. 所属学会 日本在宅看護学会 日本がん看護学会 日本看護学教育学会 日本医学哲学倫理学会 日本看護科学学会		
3. 実務の経験を有する者についての特記事項 聖路加国際病院（緩和ケア病棟） 日本看護協会 （教育研究部、東日本大震災復興支援室） 医療法人社団パリアン（訪問看護）		
4. 社会貢献 狭山市柏原小学校防災教室の企画 久留米西高等学校模擬授業 田無高等学校模擬授業	令和3年7月15日 令和4年7月15日	テーマ「自宅で迎える最期を支えるための看護」 テーマ「大学で学ぶ看護」

(様式2)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名	概 要
(著書) 1. 『認知症ケアの現場から』-「北欧ケアの思想的基盤を掘り起こす」	共著	平成28年2月	大阪大学出版会	P. 135～P. 156. 認知症患者に対して「生活世界」を基盤としたケアのあり方について、スウェーデンでの取り組みを紹介した。思想的基盤とその発展形としてのケア実践と、日本社会における導入の可能性について検討した。
(学術論文) 1. 訪問看護師が捉える高齢療養者の生活の場-看護師の判断と行為の特徴- (修士論文) 2. 「生活世界に導かれたケア」の可能性-KarinDahlbergによる「患者中心」的アプローチへの問題提起をめぐって 3. 訪問看護事業所の経営安定化に関する研究の動向と今後の課題	単著 単著 共著	平成20年3月 平成25年8月 令和4年7月	日本赤十字看護大学大学院修士論文 文化と哲学第32号P. 77～P. 98 西武文理大学サービス経営学部研究紀要	訪問看護師3名を対象に、訪問を受けている自宅療養中の高齢者7名への訪問の様子を通して、訪問看護師が行う判断と行為の特徴を明らかにした。 欧州で活躍する看護学研究者のKarinDahlbergが主張する、現象学を基盤とした「生活世界」に導かれたケアに関する理論の妥当性について検証した。 2012年から2021年7月までに公表された訪問看護事業所の経営に関する25文献から、経営安定化に向けた課題を抽出した。結果として、地域特性ごと、事業所の規模ごとに経営安定化の要因を明らかにすること、および経営学的視点を取り入れた事業所運営方法も工夫と実証研究の必要性が明らかになった。
(学会発表、講演など) 1. 在宅看護にとって「生活の場」が意味するもの-「世界内存在」を手がかりに 2. スウェーデンにおけるホスピス・緩和ケアの現状		平成25年10月 平成26年11月	第32回日本医学哲学倫理学会 第33回日本医学哲学倫理学会	在宅という「生活の場」が持つ意味について、Heideggerによる「世界内存在」という概念を手がかりに、療養者らにとっての「住まうこと」の意味を考察すると同時に、「住まうこと」が在宅看護をどのように方向付けるのかを考察した。 欧州における「良い死」という概念が持つ意味の多元性とその文化的・宗教的背景に

<p>3. 在宅看取りにおける訪問看護師の困難-高齢化率の高い（S県）A地区での質問紙調査に基づいて-</p> <p>4. 訪問看護事業所管理者による経営管理の現状と支援の方向性</p>	<p>平成28年11月</p>	<p>第4回日本在宅看護学会</p>	<p>に関するワークショップにおいて、スウェーデンの文化的・宗教的背景を基盤にした緩和ケアと、その普及の程度、死における宗教者の関与、意思決定における本人重視の度合い、スウェーデン人が死に向き合うことの意味について論じた。</p>
	<p>令和4年12月</p>	<p>第42回日本看護科学学会学術集会</p>	<p>高齢化率の高い地区において、看取りを支える看護師の困難は、専門職間でケア方針についての情報共有できないことに起因することを明らかにした。</p> <p>A県の「地方都市型」および「過疎地域型」医療圏に開業する訪問看護事業所管理者を対象に経営管理の現状把握を行い、今後の支援の方向性を検討した結果について報告した。</p>